

■はじめに・第1章

趣旨

- 読書は**子どもの心の成長**に欠くことができないもの。
 ○読書計画は**すべての子どもが読書に関心を持ち、その習慣を身に付け、生涯維持する環境を、大人が責任を持って整備するための指針**となるもの。
 ○**5年間にわたる子どもの読書活動推進に関する基本方針と具体的な活動計画**を定めた。

根拠法令

- 平成13年12月「**子どもの読書活動の推進に関する法律**」

背景(国の取組)

- 平成30年4月：第4次読書計画

【取組のポイント】

- ①発達段階に応じた取組により、**読書習慣を形成**
 ②友人同士で行う活動等を通じ、**読書への関心**を高める
 ○新学習指導要領（主体的・対話的で深い学び）○合理的配慮

背景(県の取組)

- 平成30年12月：第4次読書計画

【キャッチフレーズ】

「**1日20分読書**」運動
 ~心に残る**1冊の本との出会い**~

【基本的方針】

- (1)読書環境の整備
 (2)発達段階ごとの取組
 (3)子ども同士での本の紹介 等

背景(市の取組)

- 平成18年8月：第1次読書計画

- 平成25年4月：第2次読書計画

【第2次読書計画の基本目標】

- ①読書に親しむ機会の提供と環境づくりの充実②読書環境の整備③読書推進体制の整備④人材の育成と活用⑤関係機関との連携と協力⑥読書情報の提供と啓発

- 平成27年3月：図書館読書計画

第2次期間中の表彰

【文部科学大臣表彰】

- 平成28年度 **丹波小学校**

- 平成30年度 **指宿高等学校**

指宿図書館

- 令和元年度 **西指宿中学校**

■第2章

第3次読書計画の策定経緯

- 策定委員会**を設置し計4回の会議を開催 ○児童生徒・保護者等に**アンケート**を実施
 ○活動紹介やアンケートの意見を引用。「実現性がある計画」「**指宿市らしい計画**」をめざした

■第3章

子どもたちを取り巻く状況の変化

- 子どもの数は**減少傾向**・保育所に通う幼児は**増加傾向**(市調査)
 ○幼児の育ちを支える場が**家庭と園に集中**・地域で友だちと遊ぶ**機会の減少**(民間調査)
 ○児童生徒は「忙しい」・**読書の時間**は児童生徒の生活時間全体のなかで**数%**(民間調査)

子どもたちを取り巻くIT環境の変化

- 平成24年以降**スマホが急速に普及**。県内の小学生約**7%**・中学生約**25%**・高校生約**92%**所有
 ○**スマホの所有と読書離れは比例**…放課後の空き時間、主にスマホを利用して過ごすようになる
 ○<対策>児童生徒の関心が高い、スマホ(**電子書籍**)を使った**読書推進**も有効

■第4章

全般的な現状・課題1

- 不読率**(1か月に1冊も本を読まない割合)は、小・中・高と**年齢とともに上昇**。特に**高校生は3割以上**

理由

- ①**授業や部活、スマホの利用や交友関係**が広がり、年齢とともに**読書への関心が低くなる**
 ②小学生までに**読書習慣がない**と、推薦図書等が**難しい**と感じ、**読書への苦手意識**が生まれる
 ③中高生になると、**学校図書館の蔵書**(読んでほしい本)と**生徒が読みたい本**に差が生まれる
 ※年齢とともに、学校図書館を利用しなくなる。

■第4章

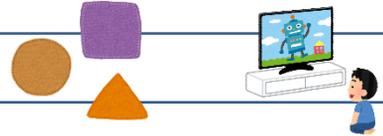
※中学生に見られる特徴

○本を読むことが**大切だと「思わない」割合が高い**。(読むことを強制すると反発する)



一般的な現状・課題2

○読書時間や読書量について**個人差が大きい**。家庭での取組に差がある

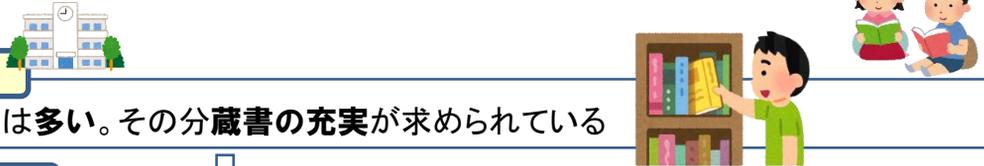


考察(読書推進のためには)

①メディア等で家庭で「**読書の時間**」が取りづらい。意識的に読書の時間を**作る必要がある**

学校図書館の現状・課題

○学校図書館の利用回数は**多い**。その分**蔵書の充実**が求められている

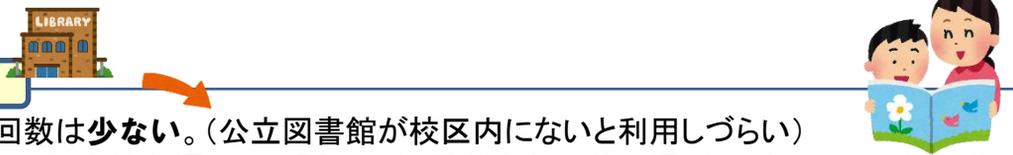


考察(読書推進のためには)

①蔵書を充実させる…読書率上昇につながる

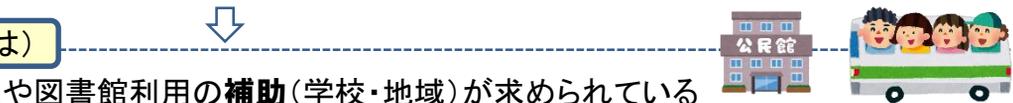
公立図書館の現状・課題

①公立図書館を利用する回数は**少ない**。(公立図書館が校区内にないと利用づらい)
②読書や学習以外に中高生は「**友達と過ごす**」保護者は「**子どもと一緒に過ごす**」使い方をしている



考察(読書推進のためには)

①**遠隔地サービス**の向上や図書館利用の**補助**(学校・地域)が求められている
②図書館利用の**保護者への呼びかけ**や会話や読み聞かせができる**スペース**…利用回数が増える

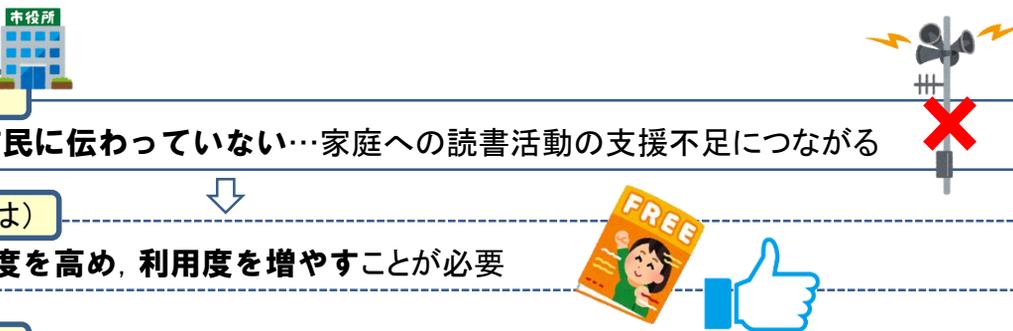


行政の現状・課題

①読書の事業や啓発が**市民に伝わっていない**…家庭への読書活動の支援不足につながる

考察(読書推進のためには)

①広報手段を工夫し**認知度を高め**、**利用度を増やす**ことが必要



その他の特徴1

①子どもや保護者の**約9割が「本を読むことは大切」と認識**。ただし読書につながっていない

考察(読書推進のためには)

読まない理由(1) 「**忙しい**」…対策:家庭や学校等で**読書の時間を確保**する
読まない理由(2) 「**苦手**」…対策:幼少期に読書に慣れること(**読書の習慣化**)の**支援**
読まない理由(3) 「**難しい・面白くない**」…対策:**レベルに合わせた選書・幅広いジャンルの紹介**



その他の特徴2

①「**マンガ**を読書に入れて欲しい」「**マンガなら読む**」という意見。**電子書籍**に対する興味が高い

考察(読書推進のためには)

マンガや電子書籍等を入口とした、**包括的な読書支援**をすれば、読書への関心が高まる



■第4章

その他の特徴3

①中高生までに心に残る1冊と出会う割合は約半数。中学生期に人や学校図書館をつうじて出会う

考察(読書推進のためには)

中学生期に、友達、先生からの働きかけや特に学校図書館の環境作りが有効

■第5章

基本目標

○子どもたちが1人でも多く本を読み、「心に残る1冊の本」と出会えるまち

めざす子どもたちの姿

- (1) 読書への関心が高い(「読書が好き」だという割合を増やす。目標値:平均70%⇒80%)
- (2) 読書習慣を身に付けて維持している(高校生の不読率を改善する。目標値:33%⇒26%)
- (3) 心に残る1冊の本と出会っている

目標Ⅰ

○幼児から高校生まで、子どもの読書活動を切れ目なくサポートします

目標Ⅱ

○手が届く場所に本があり、心に残る1冊に出会える読書環境を作ります

目標Ⅲ

○読書事業を広く知らせ、本が読みたくなるような啓発活動を行います

■第6章

1 目標Ⅰ(幼児から高校生まで、子どもの読書活動を切れ目なくサポートする)の活動目標

【1 家庭…子どもが初めて本に出会う場所】

- (1)親子の読み聞かせや読書の時間を作る (現状:66%⇒80%)
- (2)図書施設(公立図書館、本屋等)を利用する



【2 保育所・幼稚園…乳幼児期に読書の楽しさを伝える場所】

- (1)親しみやすい読書活動に努める (2)職員のスキルアップ研修 (3)保護者への広報や啓発



【3 学校…読書習慣を形成する重要な場所】

- (1)第3次読書計画を学校の読書計画に取り込む (現状:55%⇒100%)
- (2)全校一斉読書(朝読書)を行う (3)職員研修・公立図書館の訪問や活用
- (4)多様な本と出会う機会を作る (5)主体的な読書活動を支援する



【4 公立図書館…地域における読書活動の中心となる場所】

- (1)利用しやすい環境づくり (貸出カードを持ち、年1回以上本を借りる児童生徒(現状:30%⇒50%))
- (2)イベントの開催 (3)学校や読書グループとの連携・協力 (4)中高生の不読率改善の取組



【5 地域・市民団体…学校以外で子どもたちを育てる場所】

- (1)子ども会…公立図書館の利用や読み聞かせ活動
- (2)自治会…子どもたちが地域の中で読む機会を作る (3)読書グループ…活動の継続と会員拡大



■第6章

2 目標II(手が届く場所に本があり, 心に残る1冊に出会える読書環境作り)の活動目標

【1 学校図書館…子どもたちにとって, もっとも身近な図書館】

- (1)学校図書館図書標準の達成(継続)に努める。(現状小学校75%中学校100%⇒全小中学校で達成)
- (2)幅広いジャンル・発達段階に合わせた選書
- (3)居場所としての図書館の環境づくり
- (4)本の紹介や展示の工夫, 学級文庫等の整備・充実
- (5)公立図書館や他校の学校図書館との連携・協力
- (6)学校図書館の地域への解放



【2 公立図書館・地域…誰もが無償で利用できる公共施設・地域自治の拠点】

- (1)公立図書館…図書館資料の計画的な整備と学校図書館のモデルとなる資料の充実
- (2)行政・公立図書館…遠隔地サービスの充実
- (3)児童施設の図書環境の整備



3 目標III(読書事業を広く知らせ, 本が読みたくなるような啓発活動)の活動目標

【1 市や公立図書館…読書推進の情報収集と発信拠点】

- (1)読書事業の広報を行い認知度を高める。啓発活動を行う。(現状の認知度 平均16%⇒33%)
- (2)家族団らんの日や読書週間に合わせた取組
- (3)学校や団体, 個人の表彰



■第7章

ユニバーサルデザインを踏まえた活動について

○読書支援は障害のある子ども(ディスレクシア等)や母国語が日本語ではない子どもにも保障される

【活動目標】

- (1)情報収集と実態把握 (2)研修を開催 (3)図書館の環境整備・充実 (4)養護学校への支援



■第8章

子どもの読書の関心を高める取組について

○子どもが読書への関心を保ち続けるためには, 読書の世界を広げられるような支援が必要

【活動目標】

- (1)友達同士で本を薦め合う取組や遊び感覚で読書に親しむ手法を取り入れる
- (2)包括的な読書支援に取り組む
⇒マンガ, 映画・テレビ, 部活動, 創作活動等を入口とした支援



■第9章

推進体制の整備

○子ども読書活動を推進する上で, 関係団体の連携協力が必要

【活動目標】

- (1)学校と地域の連携 (2)学校と公立図書館の連携 (3)計画を実現する体制

